



クローズアップ 066414

新しい芸術文化の幕開け

来年3月にオープンする、高槻城公園芸術文化劇場（以下、新劇場）。開館を記念して、プレイベントを9月に開催します。
問合せ 歴史にぎわい推進課 / TEL674-7393

たくさんの方が利用する劇場へ

新劇場は公園内にあり、カフェもあって、とても開かれた劇場です。公演を見る目的がなくてもくつろいだり、家族で遊んだりできます。皆さんが集まり交流する「たまり場」になってほしいです。

劇場は市民が育てるもの

劇場は単に建物として存在するのではなく、人格を持っていると考えています。建ってから建て替えるまでが約50年であること、人と関わりながら成長していくことが人の一生と重なります。新劇場がいい人生を送れるようにそこで働く人も市民の皆さんも積極的に関わって育ててほしい。たくさん利用してほしいと思います。

多目的に使えるスタジオに注目

トリシマホールや太陽ファルマテックホール、大スタジオが素晴らしいのはもちろんですが、音楽やダンス、会議など多目的に使えるスタジオが10室もあるのは、全国でも珍しく、ぜひ利用してほしいです。スタジオはガラス張りで見えやすいので、歩くだけで楽しいので、子どもたちの散歩コースになってほしいです。小さいころから親しんで、自分も使いたいと思ってもらえるといいと思います。

プレイベントで期待を高めて

新劇場では、公園と劇場全体を一緒に使ったイベントなど、今までできなかったことができるようになります。9月のプレイベントでは、劇場というのを知ってもらい、新劇場への期待を感じてもらえたらと思います。またこれが、市民会館に入ることができる最後のチャンスです。市民の皆さんの人生が詰まっている場所でもあるので、それぞれの思いを巡らせながら参加してほしいと思います。



蔭山陽太さん
市文化スポーツ振興事業団顧問

2020年から新旧劇場の運営を担う同団顧問として新劇場の整備に携わる。長野、神奈川、京都など数々の劇場の設立・運営や舞台芸術作品の企画制作も手掛ける。THEATRE E9 KYOTO支配人。京都芸術大学准教授。

プレイベントを開催

新劇場は、来年3月のオープンに向け、整備が進められています。建設地は、高槻現代劇場市民会館の南側のエリア。高槻城二の丸跡地の高槻城公園の中に位置します。さまざまな芸術文化活動に対応できる施設を備えています（写真①～④）。

これまで市民会館を利用していた人だけでなく、より多くの人に新劇場を利用してもらえるよう、劇場や高槻の街の魅力を再発見できるプレイベントを開催します。会場は7月に閉館した高槻現代劇場市民会館で、特別に入ることができる貴重な機会です。ぜひ参加して、劇場と芸術文化の魅力に触れてみてください。



①約1,500席を備えるトリシマホール（大ホール）は、地元木材を加工したキューブにより高い音響効果を実現 ②太陽ファルマテックホール（小ホール）は、サイドの窓から公園の緑が見えて開放感のある空間 ③劇場内は随所に木が用いられ、ぬくもりが感じられる ④練習や創作に利用できる中小スタジオは、開放感のあるガラス張り

市制施行80周年記念プレ事業

高槻城公園芸術文化劇場 開館記念イベント 高槻芸術時間「インターロード」

今年7月に閉館した市民会館を活用し、国内外で活躍するアーティストによるアートイベント、高槻芸術時間「インターロード」を開催します。「インターロード」とは、劇の「幕間（まくあい）」に上演される短い喜劇や音楽の「間奏」の意味。7月、長年親しんできた高槻現代劇場市民会館の幕が降り、来年3月に高槻城公園芸術文化劇場の歴史が開幕します。文化施設の建て替えという50年に一度の「幕間」の、8日間だけの特別な展覧会です。

問合せ 高槻現代劇場 / TEL671-9999 (10:00~17:00、原則月曜は休館)

市民会館の探検

梅田哲也「9月0才」

建物の構造や周囲の環境から着想を得て、場所そのものを作品に変化させる現代アーティスト梅田哲也。

閉館した高槻現代劇場市民会館（1964年建築）の館内を使い、この時だけの特別なツアー形式の展覧会を発表します。鑑賞者は、大ホール、元結婚式場、会議室、ロビーなどさまざまな空間をガイドの誘導のもと巡ります。



「0階」 (さいたま国際芸術祭2020)
Photo: MARUO Ryuichi



「0階」 (さいたま国際芸術祭2020)
Photo: MARUO Ryuichi

Profile

建物の構造や周囲の環境から着想を得たインスタレーション（場所や空間全体を作品として体験させる芸術）を制作。先鋭的な音響のアーティストとしても国際的に知られている。

ID 004412

新劇場への寄付を募集しています

新劇場整備やコンサートなどの文化事業に活用するための寄付を募集しています。

寄付者には、開館記念冊子への氏名掲載や施設に掲示するネームプレート、オープニングイベントへの招待チケットなど、特典を用意。なお、特典がなくなり次第募集を終了します。残りがなくなってきましたので早めのご応募お待ちしております。

応募 市ホームページ、窓口、郵送で
問合せ 歴史にぎわい推進課 / TEL674-7393

9/17(土)~25(日) (20日を除く)

梅田哲也「9月0才」

会場 高槻現代劇場市民会館 ※7月閉館

料金 無料

申込 事前申込制。8/9(火)から受け付け開始

orangcosong「演劇クエスト 高槻編」

会場 高槻市内

※「冒険の書」は会期中に高槻現代劇場市民会館で配布

料金 無料

申込 不要

開催時間や申込方法などの詳細は、同劇場ホームページ（右上QRコード）または、高槻現代劇場へお問い合わせください。



高槻の街中へ

orangcosong「演劇クエスト 高槻編」

「冒険の書」に書かれた選択肢を手がかりに、観客一人一人が町の中を歩いて物語を進めていく、自由度の高い遊歩型ツアープロジェクト。

これまで世界各地で創作されてきましたが、今回はその高槻バージョンとなります。まずは「冒険の書」を手に入れてください。高槻の町をさまよう不思議な時間が始まります。幸運を祈る！



香港 (Courtesy of Hong Kong Arts Center)



東京 (東京都現代美術館)

Artist comment

高槻のみなさんと一緒に、不思議な時間を創出します。いつもの道がなんだか違って見えるような「演劇クエスト」をお楽しみに！

Profile

藤原ちからと住吉山実里によるアート・コレクティブ（※）。「演劇クエスト」はこれまで横浜、城崎、マニラ、バンコクなどで展開。※プロジェクトごとにさまざまなメンバーとともに創作を行い、新たな表現方法などを模索すること

アーティストトーク

申込順40人

イベントの開催に先立ち、orangcosongを招いてのアーティストトークを開催します。これまでに発表されたプロジェクトの紹介や高槻を舞台に創作する新作「演劇クエスト 高槻編」について、またその創作過程についても話します。参加者とのQ&Aセッションも予定しています。

日時 8/4(木) 19:30~21:00
場所 高槻現代劇場レセプションルーム
申込 同劇場ホームページ（右QRコード）、窓口、電話で



運営スタッフに聞く

プレイベントの楽しみ方

このイベントは、市と市文化スポーツ振興事業団が京都芸術大学と協働で行うアートプロジェクトです。運営に携わっている皆さんに、イベントの魅力、新劇場への期待について伺いました。

新しい表現や
ワクワクする
気持ちに
出合っほしい



山城大督さん

(アーティストック・ディレクター
京都芸術大学専任講師)

これまで市民会館に来たことがある人には劇場を新鮮な目で見える機会に、初めて来た人には、高槻や劇場に触れる機会になると思います。懐かしくて、新しい体験をぜひ味わってください。期間中、何度でも来場して楽しんでもらいたいです。

参加をきっかけに「私も表現したい」「あんなことをしてみたい」と思う人が増えればいいなと思います。

新劇場は、創造力をさらに膨らませたり、創造する人たちをつないだりする場所であってほしいと思います。ファッションショーや子ども向けのサマースクールをしたいですね。

街の新しい
魅力に気付
いてほしい



藤村南帆さん

(プロジェクトマネージャー補佐)

いろんな人とおしゃべりしながら、散歩するような気持ちで参加するとより楽しめます。

自分がこれまでに訪れた場所や体験したことなどを自然と思い出せるようなイベントになるといいと思います。同時に、知らなかった場所や人に出会い、なじみ深い街の新しい魅力にも気付いてもらえるとうれしいです。

私も高槻市に住んでいるので、イベントの準備を通して、知らなかったギャラリーを発見したり、子どものころに市民会館で行った発表会の写真を久々に見返したりしました。

新劇場ができれば、ふらっと行ってのんびりしたいです。

参加者だけが
得られる体験
をしてほしい



渡部なつめさん

(京都芸術大学アートプロデュース学科)

昨年、大学の授業で、市民会館の来館者を対象にした調査を行ったことがきっかけで学生スタッフとして関わっています。

参加者が街や劇場内を歩いて、参加者も作品と一体となる体験型の作品です。実際に市民会館を訪れ、イベントに参加し、楽しんでもらいたいです。市民会館が培ってきた「空間」と「ひと」の関係を、新劇場につなげていくイベントになると思います。

新劇場も市民会館のように、普段から気軽に訪れることができる、市民の皆さんにとって親しみやすい居場所になってほしいです。

いろんな人と
感想を共有
してほしい



大倉憲斗さん

(市文化スポーツ振興事業団)

自分にとって「日常を過ごす職場」である市民会館。アーティストの視点から観察すると、興味深いデザインや他の劇場にはない特徴的な構造が散りばめられていることが分かり、改めて魅力的な建物であると思いました。

イベント参加後は、感想を家族・友人に話したり、SNSなどで共有・意見交換したりすると、異なる見方が発見できて、より楽しめると思います。

新劇場では、今までできなかったジャンルの公演も数多く計画なので、これまで以上にたくさんの人に来てほしいです。

劇場で出会う 新たな体験

日常から離れて
劇場で過ごす
アートで特別な時間は
あなたに新しい世界を
見せてくれます

新劇場オープンまで
あと7カ月

さあ、劇場へ



デザイン：いすたえこ (NNNNY)
カメラマン：増田 好郎
衣装：山本哲也 (POTTO)
モデル：jennifer
ヘア&メイク：Nagisa